

令和2年度 とまり樹はうす 事業報告書

1 総括

令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受けた1年となった。少しの体調の異変でも感染防止のために当日利用をキャンセルするケースも多く、職員の勤務調整に苦慮したほか、全体的な実績の低下で給付費収入も目標額を大きく下回った。一方で外出制限によるストレス解消のための利用希望もあり、コロナウイルスが利用者や家族の生活に与えた影響の大きさを改めて感じる事となった。このような状況の中、利用開始時及び終了時の検温による健康確認や建物内の消毒を徹底し、感染者を一人も出さずに通年開所できたことは大きな意味があったと考える。状況の変化に対して、戸惑いが大きい利用者や家族のためにも、またこれまでは想定しなかった事態が起こりうる可能性がある中で、短期入所事業のセーフティネットとしての役割がより一層重要となると感じている。令和3年度も感染防止対策を徹底し地域のニーズに応じていけるように努めたい。

2 事業概要

- 1) 施設名 とまり樹はうす
- 2) 事業種別 短期入所事業（併設型）
- 3) 所在地 東京都小平市花小金井南町1 - 26 - 28
- 4) 経営主体 社会福祉法人未来
- 5) 利用定員 2名
- 6) 法人認可年月日 平成14年12月13日
- 7) 事業開始年月日 平成28年4月1日
- 8) 職員 (令和3年3月31日現在)
管理者 1名
生活支援員14名（常勤換算1.0）

- ## 3 基本理念
- 一人ひとりの自己実現の支援
互いの尊厳の尊重と信頼関係の構築
安心と希望のもてる生活

4 事業目的

- 1) 一時的な生活支援
家族または介護者が何らかの理由（冠婚葬祭、病気、事故、休養、その他の理由）により、一時的に自宅で支援することが困難な場合に、日常生活に必要な支援を行う。
- 2) 生活体験としての支援
生活体験の幅を広げ、より豊かな生活を支援する。

5 実施事業（活動内容）

- 1) 居室の提供
- 2) 食事の提供
- 3) 洗濯、掃除等の生活支援
- 4) 健康管理
- 5) 日中活動先（福祉サービス及び職場等）、関係機関との連絡、調整
- 6) 入浴等生活行為の支援
- 7) その他日常生活に必要な支援

6 日 課

- | | | |
|---------|--------|-------------|
| 5時00分～ | 7時30分 | 起床 |
| 7時30分～ | 9時30分 | 通所事業所、会社へ出勤 |
| 16時00分～ | 17時00分 | 利用開始 |
| 16時00分～ | 20時00分 | 入浴 |

18時00分～19時00分 夕食
20時00分～22時00分 就寝

7 重点課題・目標に対する評価

1) 活動

- (1) 365日の支援体制を整備し、緊急対応の支援を行うことでセーフティネット機能の役割を果たす
- ① 職員確保のための求人活動を実施する
- (ア) 短期入所事業所建物及び法人内建物へ求人チラシのポスターを掲示する。
- (イ) 年2回法人発行の機関紙へ求人チラシを折り込む。
- (ウ) 法人のホームページの「職員募集」のレイアウトを変更し、求人内容が目立つように工夫する。
- (エ) 短期入所事業及びグループホームに限定した求人チラシを、年間を通して配布する(法人内事業所への業務委託)。

【成果と課題】

常勤換算で16.7名の職員が揃えば、365日の支援体制が確保できる状況であるが、令和2年度は、常勤換算8.7名でスタートし、新規に5名採用したが12.7名とまだ4.0名の職員が不足した。これにより土日祝日の開所は積極的に実施することができなかった。ただし、緊急ケースについては、土日祝日に実3名延31名すべて受け入れを行った。

《土日祝日の利用実績》

計画	R2年度実績	R元年度	目標達成率
50%	13.4%	28.5%	26.8%

《新規採用者5名の応募媒体》

ハローワーク2名、求人チラシ1名、人材紹介1名、知人紹介1名

(2) 体験利用者の支援内容を充実する

- ① 定期利用希望者には最低2か月に1回の利用を保障する。そのために定期的な利用者数は35名と設定する。

【成果と課題】

令和元年度の定期利用者は32名であったが、今年度は、コロナウィルス感染防止のため、8名が利用を自粛し、年間24名の定期利用となった。最低2か月に1回の利用を計画していたが、利用者の減少により、24名には月に1回の利用を保障することが出来た。また、令和3年4月に開設するグループホームに8名が入居することから、新規に定期利用希望者を募集した。最低2か月に1回の利用が保障できる人数を再度試算し、定期利用者数を40名程度と設定したが、27名の応募があった。そのうち、年齢、介護者の状況等を総合的に判断し新規の定期利用者18名を決定し、次年度は40名の定期利用者となる。残りの9名については、令和3年4月に新たに開設する法人内の短期入所事業への利用登録を勧めたところ、応募者全員が希望した。

- ② 利用時の支援状況や利用者の様子及び行動等を丁寧に記録し支援内容の充実を図る。

【成果と課題】

ケース記録に記載項目がある、食事、就寝、入浴時間等については記録されていたが、利用時の様子(体調面、心情面、居室での過ごし方)や職員の支援内容については記載されていないことが多く、支援経過の共有が不足していた。これにより、支援のノウハウの積み重ねも不十分となった。

(3) 利用者が安心して利用できる環境をつくる

- ① 利用前に本人、家族から状況や要望の聴取を行った上、アセスメント情報や申し送りによって、確実な情報を職員間で共有することで円滑な支援を実施する。

【成果と課題】

新規利用の3名全員について、事前に通所先の事業所から必要な情報を聴取し、事故なく支援を行うことが出来た。

- ② 利用後に利用時の様子を報告し、意見や感想を聴取することで支援の評価をおこなうとともに、次回の支援に役立てる。

【成果と課題】

多くの利用者家族からは、短期入所の利用が徐々に慣れてきており、利用の前後は自宅で日頃と変わらない様子で過ごしているとの報告があった。しかし、2名の家族から利用後に精神的に不安定になる状況がみられるとの報告があった。2名とも短期入所利用時は落ち着いて過ごしていることから、利用時の緊張の反動ではないかということになり、家族と対策を話し合った結果、継続して利用することで改善が図られるか様子を見ることとなった。

- ③ 一人ひとりの情報を正確に記録し、また、申し送りを徹底することで、支援の統一を図る。

【成果と課題】

服薬やアレルギーなどについては、利用前に主たる職員より口頭にて申し送りを行い、事故なく支援を行うことができた。今後、事故防止の徹底のため、次年度は書面による引き継ぎを徹底したい。一方、利用者の様子や職員の支援内容等についてはケース記録への記載が不十分で、利用者の特性や嗜好などを全体で共有し、支援に役立てるという姿勢が欠如していた。記録の充実等を図り、次年度は支援の質の向上に取り組みたい。

(4) 個別支援計画の作成を行う

- ① 食事、入浴、睡眠等に戸惑い等がみられる13名を対象に、支援計画を作成する。
- ② ケース記録をもとに支援経過や本人の状況の変化を整理する。
- ③ 効果的な支援方法等の共有を図り、スムーズな利用が行えるようにする。

【成果と課題】

本人の状況や支援経過、支援上の留意点等の記録が不十分であったため、個別支援計画を作成するために必要な情報が整理できず支援計画の作成は実施できなかった。

2) 人材育成

(1) コーディネートの担当職員

到達目標

- ① 全職員の業務スキルを把握し、個々に応じた助言、指導を行う力を向上させる。
- ② 全職員に支援方針を明確に周知し、方針に基づいた支援の実行を徹底させる。
- ③ 課題を発見し、具体的な改善策を提案する力を身につける。
- ④ 多角的な視点による、適切な判断基準を身につける。
- ⑤ 施設経営に関する業務の知識を習得する。(経理・労務管理・国保連及び都加算請求等の実務、経営会議及び理事会等の傍聴)

【成果と課題】

課題はあるものの概ね施設長に必要なスキルに到達しており、令和3年4月に開設の新規短期入所の施設長に就任した。今後、利用者支援におけるPDCAサイクルについて学ぶとともに、その実践と他の職員への指導の徹底を図る必要がある。

(2) 生活支援員

到達目標

- ① 情報共有を徹底し、一貫性のある支援を行う。
 - ・利用者の様子や支援内容を丁寧にケース記録へ記載する。
- ② 事故防止を徹底する
 - ・服薬管理方法等のマニュアルを遵守し、誤薬等の事故を防止する。
 - ・無断外出行為のある利用者に対し、見守り及び建物内の施錠を徹底する。

【成果と課題】

①前述の通り、記録の不備に伴い、利用者支援におけるP D C Aサイクルの視点が全体的に不足していた。管理側の指導不足に負うところが大きいですが、次年度指導の徹底により、改善を図りたい。

②服薬管理の担当者を決め、服薬時のマニュアルを遵守したことにより誤薬は防止することができた。また、けが及び無断外出等の事故についても防止することができた。

《令和元年度》

服薬忘れ	2件
無断外出（離接）	1件

3) 経営管理

(1) 月次試算を正確に行い、計画的に予算を執行する。

【成果と課題】

月次試算分析により月々の経営状態は把握されている。緊急的な支出も発生せず、計画的な予算執行が行えた。

(2) 介護給付費収入の安定確保のため、利用率を増加する。

- ・目標利用率： 平日100%、休日50%

【令和2年度目標額】

・介護給付費収入	580万	(元年度	約530万)
・都加算収入	220万	(元年度	約200万)
	800万	(元年度	約730万)

【成果と課題】

新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、7月まで利用実績が減少したことに加え、土日の受け入れも積極的に実施しなかったことにより利用率が前年度比で減少した。この影響で、年間で目標の収入には達しなかった。

《利用率》

	目標	R2年度実績	目標達成率	R元年度実績	元年度との差
平日	100%	83.9%	83.9%	89.2%	△5.3%
休日	50%	13.4%	26.8%	28.5%	△15.1%

《給付費等収入》 単位：円

	目標	R2年度実績	目標達成率	R元年度実績	元年度との差
介護給付費収入	580万	約492万	84.8%	約535万	△43万
都加算の収入	220万	約167万	75.9%	約188万	△21万
総額	800万	約659万	82.4%	約723万	△64万

8 事故報告

なし

9 実施状況

1) サービス実施日数〈期間 自：令和2年4月1日 至：令和3年3月31日〉
294日間 (内、土・日・祝日開設32日間)

10 利用状況

1) 利用実績ー 実人数32人、延人数441人 (元年度 実人数41人、延人数506人)

〈実績内訳〉

	実人数	延人数	(元年度：実人数	延人数)
・緊急的な利用	15人	272人	(17人	266人)
・体験的な利用	17人	169人	(24人	240人)
・平日の実績	32人	411人	(41人	437人)
・土日休日の実績	4人	32人	(8人	69人)
※実人数4人は平日と休日で重複			※実人数8人は平日と休日で重複	

11 利用者状況 (令和3年3月31日現在)

1) 年齢

【利用者実人数】

- ・18歳以上20歳未満 0名
- ・20歳以上30歳未満 17名
- ・30歳以上40歳未満 10名
- ・40歳以上50歳未満 5名
- ・50歳以上 0名

【利用者延べ人数】

- ・18歳以上20歳未満 0名
- ・20歳以上30歳未満 247名
- ・30歳以上40歳未満 147名
- ・40歳以上50歳未満 47名
- ・50歳以上 0名

2) 障害の状況

(1) 障害支援区分

【利用者実人数】

- ・区分1 0名
- ・区分2 2名
- ・区分3 4名
- ・区分4 5名
- ・区分5 13名
- ・区分6 8名

【利用者延べ人数】

- ・区分1 0名
- ・区分2 6名
- ・区分3 46名
- ・区分4 48名
- ・区分5 237名

・区分6 104名

3) 居住状況

【利用者実人数】	管内居住	27名	管外居住	5名
【利用者延べ人数】	管内居住	402名	管外居住	39名

4) 性別

【利用者実人数】	男性	26名、	女性	6名
【利用者延べ人数】	男性	367名、	女性	74名

1.2 環境の整備

事業所内外の美化と利用者周辺の整理整頓につとめ、転倒などの事故防止に努めた。

1.3 健康管理

利用開始時及び利用終了時の検温実施及び建物内の消毒等により、新型コロナウイルス感染症防止に努めた。

1.4 防災

併設している花の樹と合同で、災害時避難訓練を年2回実施した。3月に計画していた防災訓練については新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止とした。